石川工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	コンピュータリテラシー

科目基礎情報

科目番号	20505	科目区分	専門 / 必修
授業形態	実験・実習・実技	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	建築学科	対象学年	1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	入門 情報リテラシー		
担当教員	森原 崇		

到達目標

1．情報処理機器の基本操作を行える。
2．情報処理技術の基本概念を説明できる。
3．情報機器を用いて情報収集，活用を行える。
4．情報倫理，情報セキュリティについて説明できる。
5．コンピュータを用いて文書を作成できる。
6．コンピュータを用いて表計算ができる。
7．コンピュータを用いたプレゼンテーション資料が作成できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
到達目標 項目1,2,3	情報処理機器の基本操作および説明を行える。	情報処理機器の基本操作や内容を知っている。	情報処理機器の基本操作や説明を行えない。
到達目標 項目4	情報倫理，情報セキュリティについて説明できる。	基礎的な情報倫理，情報セキュリティについて説明できる。	情報倫理，情報セキュリティについて説明できない。
到達目標 項目5	コンピュータを用いて文書を作成できる。	コンピュータを用いて基本的な文書を作成できる。	コンピュータを用いて文書を作成できない。
到達目標 項目6	コンピュータを用いて表計算ができる。	基礎的なコンピュータを用いて表計算ができる。	コンピュータを用いて表計算ができない。
到達目標 項目7	コンピュータを用いたプレゼンテーション資料が作成できる。	基礎的なコンピュータを用いたプレゼンテーション資料が作成できる。	コンピュータを用いたプレゼンテーション資料が作成できない。

学科の到達目標項目との関係

本科学習目標 1 本科学習目標 2

教育方法等

概要	情報処理機器の基本概念を習得し，機器を扱うための基礎学力を養う。 情報に関する倫理を理解し，行動できる。 情報処理機器を使ってさまざまな課題の解決に意欲的に取り組む。
授業の進め方・方法	[事前事後学習]随時，講義内容の復習のためのレポート課題を与える。 [関連科目] 建築CAD基礎，建築CAD応用，卒業研究 【MCC対応】情報教育対応科目
注意点	授業中とテスト直前の学習のみでなく，平常時の予習・復習が大切です。 コンピュータの操作法は自習教材が多々あるので，参考にすると良いでしょう。 情報化社会関連のニュース報道について感心を持っておくことが大切です。 [評価方法・評価基準] 中間試験および期末試験を実施する。 小テスト（20%），試験(40%)，レポート(40%) 成績の評価基準として50点以上を合格とする。

テスト

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス，電子メールの設定と利用	情報処理機器の基本操作を行える。
		2週	情報処理機器の基礎	情報処理技術の基本概念を説明できる。 情報機器を用いて情報収集，活用を行える。
		3週	情報セキュリティⅠ	情報に関する倫理を理解し，行動できる。
		4週	情報セキュリティⅡ	情報に関する倫理を理解し，行動できる。
		5週	コンピュータによる文書作成演習Ⅰ	コンピュータを用いて文書を作成できる。
		6週	コンピュータによる文書作成演習Ⅱ	コンピュータを用いて文書を作成できる。
		7週	コンピュータによる文書作成演習Ⅲ	コンピュータを用いて文書を作成できる。
		8週	第７週までの復習，プレゼンテーション概説	コンピュータを用いたプレゼンテーション資料が作成できる。
	2ndQ	9週	情報機器によるプレゼンテーション演習I	コンピュータを用いたプレゼンテーション資料が作成できる。
		10週	情報機器によるプレゼンテーション演習Ⅱ	コンピュータを用いたプレゼンテーション資料が作成できる。
		11週	表計算ソフトウェアの概説	コンピュータを用いて表計算ができる。
		12週	表計算ソフトウェアを用いた演習Ⅰ	コンピュータを用いて表計算ができる。
		13週	表計算ソフトウェアを用いた演習Ⅱ	コンピュータを用いて表計算ができる。
		14週	表計算ソフトウェアを用いた演習Ⅲ	コンピュータを用いて表計算ができる。
		15週	前期復習	情報処理機器の基本操作を行える。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合				
	小テスト	試験	レポート	合計
総合評価割合	20	40	40	100
基礎的能力	20	20	20	60
専門的能力	0	20	20	40
分野横断的能力	0	0	0	0